

麻生専門学校グループ、Nutanix Files で 俊敏な業務サーバー環境を構築

Nutanix により、柔軟性の高いファイルサーバー環境を整備し、効率的な運用を実現

導入によるビジネスのメリット

- ・拡張性の向上とシステムのダウンタイムの最小化を実現
- ・Nutanix Filesの利点を活かしたファイルサーバーの整備により、管理者の作業負荷を軽減し、ファイルストレージ提供までの時間を短縮
- ・誤ったリストア作業によるリスク回避
- ・Self-Service Restore機能でリストアにかかる作業時間を1/2以下に短縮
- ・管理者負担を下げ、最小限の人的リソースで効率的な運用を実現
- ・Prismによって一目でシステム正常性が判断できるように



「拡張性に優れたNutanixであれば、ノード追加で容易に拡張できるだけでなく、システムのダウンタイムも最小限にできると考えました」

- 学校法人麻生塾 法人本部 事業戦略グループ
リーダー 横山 新氏



「Nutanixであれば、Self-Service Restoreの機能で3時間程度かかっていた作業も5分足らずでリストアできます。負担が大幅に軽減できると期待しました」

- 学校法人麻生塾 法人本部 事業戦略グループ
佐々野 裕美氏



「Nutanixは柔軟な設定が可能で、ダウンタイムもなく安定して運用ができます。Nutanixだからこそお客様の課題に応えることができました」

- リコージャパン株式会社 福岡支社 ソリューション営業部
中村 哲也氏

企業

総合専門学校として福岡県下に13校の専門学校を展開、麻生専門学校グループとして情報、観光、語学、公務員、医療、福祉、デザイン、ゲーム、美容、建築、自動車など学ぶための専門領域は多岐にわたっており、即戦力となるプロフェッショナル人材の育成を積極的に行っている。現在は企業との共同プロジェクトとして制作スタジオの設立をはじめ、新たにクリエイティブ分野の学校を設立するなど、トップクリエイター育成にも力を注いでいる

業界

教育業界

課題

- ・ブレードサーバーによるトラブルが頻発
- ・バックアップリストア運用の負担
- ・環境制約で新たなアプリが展開できない
- ・拡張性の低さ

ソリューション

- Nutanix NXシリーズ
- Nutanix Enterprise Cloud OS
- Prism
- Nutanix AHV
- Nutanix Files

課題

総合専門学校として福岡県下に13校の専門学校を展開している麻生専門学校グループは、情報、観光、語学、公務員、医療、福祉、デザイン、ゲーム、美容、建築、自動車など多岐にわたる専門領域において、即戦力となるプロフェッショナル人材の育成を積極的に行ってています。

麻生専門学校グループでは、外部向けのWebサーバーやDNS、AD環境など情報系に関連した環境をブレードサーバー上に展開していましたが、運用していくなかでトラブルが頻発するようになり、保守性の悪化に伴って管理者負担が増大、拡張性の面でも課題を抱えていました。「ブレードサーバー上の制約で新たなOSを動かすことができず、電子稟議などの新たな仕組みを展開するために別のサーバーを立てざるを得ませんでした。障害発生時のリストアには作業に手間と時間がかかるなど、運用的な負担軽減も課題となっていました。1枚のブレードをファイルサーバーとして運用していたため柔軟な拡張が難しく、容量的にも限界を迎つつありました」と法人本部 事業戦略グループリーダー 横山 新氏は当時の状況を振り返ります。

ソリューション

課題を抱えているなかで、ブレードサーバーの更改タイミングを迎えることになり、Nutanix Enterprise Cloud OSの導入を検討しました。「3層構成では拡張性が乏しいばかりか、従来のバックアップ環境同様、外部にサーバーを立てて運用する構成が必要です。対して拡張性に優れたNutanixであれば、ノード追加で容易に拡張できるだけでなく、システムのダウンタイムも最小限にできると考えました」と横山氏は評価します。

また、事業継続に関わるバックアップ環境がシンプルに運用できる点も評価しました。以前はサードパーティ製のソフトウェアを利用し、外部に設置されたサーバーを利用、最終的にはテープメディアに落とし込む運用を行っていました。「Nutanixであれば、Self-Service Restoreの機能で3時間程度かかっていた作業も5分足らずでリストアできます。負担が大幅に軽減できると期待しました」と同グループの佐々野 裕美氏が語ります。

さらに、運用管理におけるPrismの使いやすさも評価の1つに挙げています。「直感的に情報を把握しやすく、システムの健全性などがすぐに判別でき、管理的な負担も減らせると考えました」と横山氏は評価します。

なお、今回提案から導入、運用支援はリコージャパン株式会社が手掛けています。導入提案から手掛けてきた中村 哲也氏は「Nutanixは柔軟な設定が可能で、ダウンタイムもなく安定して運用ができます。Nutanixだからこそお客様の課題に応えることができました」と語ります。

管理者負担の軽減と高い拡張性が実現できる点が評価され、Nutanix Enterprise Cloud OSを採用しました。

導入効果

現状は、データセンター内にNutanix NXシリーズを本番環境用に3ノード、バックアップ環境として別筐体に1ノード展開しており、基本的に情報系のアプリ、公開用WebサーバーをNutanix上で稼働させています。「最終的に全ての環境をNutanixに移行できれば、バックアップも含めた運用管理の手間が大きく軽減できるのは間違ひありません。」と佐々野氏は評価します。

今回の導入ではNutanix Filesを使い、クラスタ内ストレージの一部をファイルサーバー用として活用しています。「ユーザー側での容量増にも柔軟に対応できるため、拡張しやすいNutanixの利点を生かしたままファイルサーバー運用が可能です」と横山氏。Nutanix FilesはNutanix Enterprise Cloud OS内に当初から実装されており、追加ライセンスの支払いだけで使うことができました。

Prism上でNutanixクラスタの健全性を確認している佐々野氏。「1つの画面だけでシステムの状態がすぐに把握できるため、日常的にも使いやすい。ハート表示がすべて教えてくれます」と評価します。

大きく期待しているのは、更改時にダウンタイムなく切り替えできる拡張性です。「5年後の入れ替えが早く来ないかと楽しみにしているほどで、ダウンタイムゼロで運用ができるのは本当に素晴らしい」と横山氏は話します。ノード入れ替えだけで刷新が可能なため、大きな予算を単年度に確保せずとも、少しづつ刷新できる点も大きな魅力だと力説します。

今後の展開

現状姉妹校に残っているファイルサーバーを現在のNutanix環境に集約させていく計画です。また、BCP環境の強化のため、いずれはバックアップ環境を別拠点に構築していきたいと語ります。「今後新しいサーバーやサービスはできる限りNutanix上で動かしていくたいですね。個人的にはハイパーバイザーとしてのNutanix AHVにも興味を持っています」と横山氏。



www.nutanix.jp
Email info-jp@nutanix.com